

厚生労働科学研究費補助金

長寿科学総合研究事業

急性期入院医療と在宅ケアの連携のあり方に関する調査研究

平成17年度報告書

平成18年4月

主任研究者 池上直己

目 次

第Ⅰ章 調査の概要	1
1. 調査の背景と目的	1
2. 調査の対象	4
3. 調査の方法と流れ	5
第Ⅱ章 調査結果	7
1. 対象患者数	7
2. 在宅への退院患者の状態	8
3. 看護師の在宅機関との連携に関する意識	25
4. 看護師による「患者調査票」に対する評価	29
5. 退院時連携の状況と在宅ケアスタッフからの評価	34
6. 退院後のサービス利用状況	39
第Ⅲ章 MDS-AC の試用結果	41
1. 調査概要	41
2. 試用結果	42
3. 病棟看護師による評価	43
第Ⅳ章 今後の課題	44
1. 連携マニュアルの作成に向けて	44
2. 今後の課題	45
資 料	
1. 調査票	47
2. 患者アセスメント表	54

第 I 章 調査の概要

1. 調査の背景と目的

(1) 調査の背景

病院から退院後に在宅サービスを利用する場合、病院と在宅機関の連携が円滑になされていないのが現状といえる。しかし、病院から退院後に在宅でサービスを利用するかどうかは、入院前の状態や在宅サービスの利用状況によって大きく規定されていると考えられる。そこで、病院としてこうした状況を把握すると同時に、在宅機関と病院の間で、適切な情報の交換が適切に行われる必要がある。

(2) 研究の目的

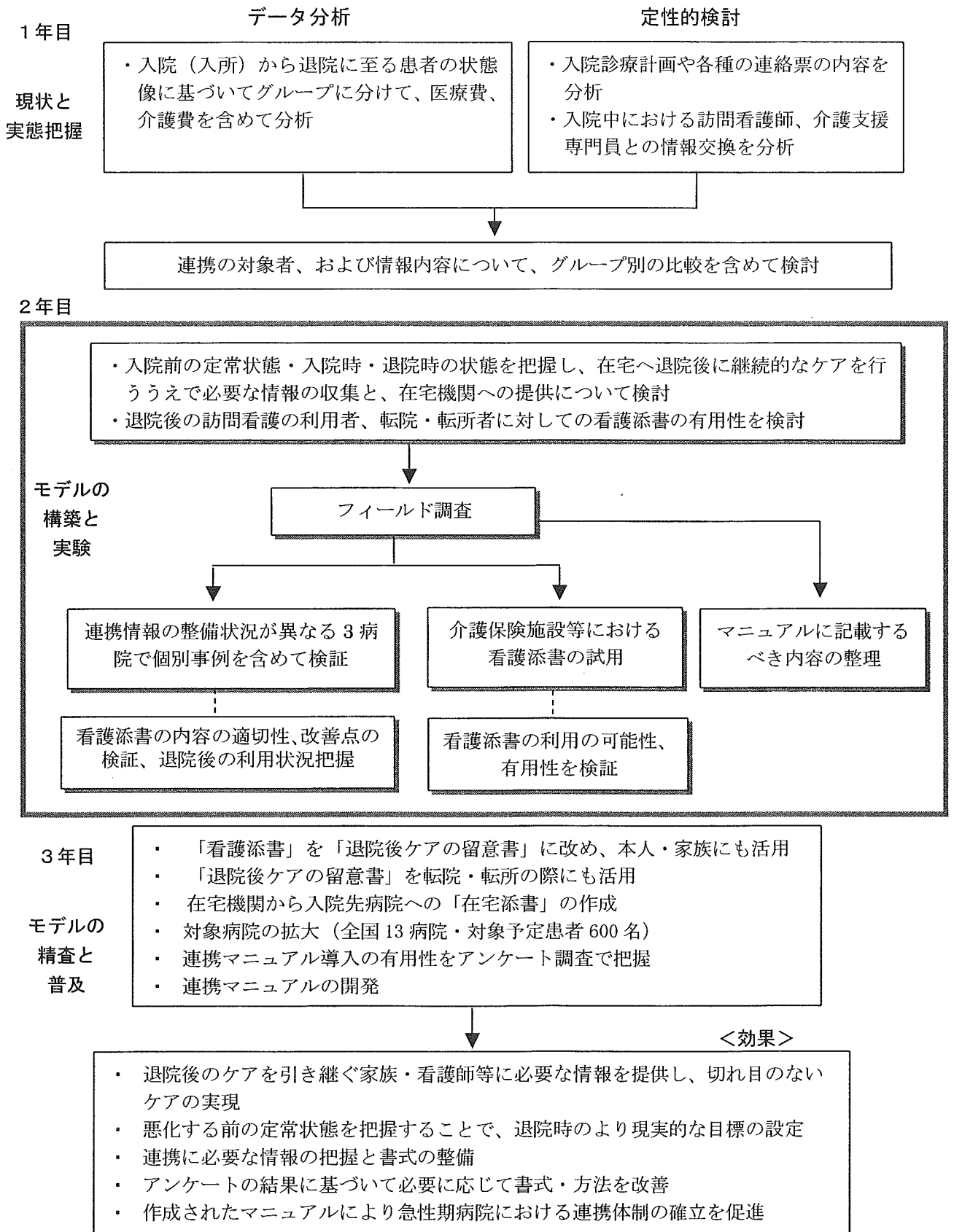
本調査研究では、急性期病院を中心として、入院前後の在宅機関や転院・転所先の医療療養病棟や介護保険施設との連携に向け、入院医療と在宅サービスとの連続性を保つため、訪問看護師・介護支援専門員と病棟看護師の連携を強化する。また、両者を介して病院と在宅それぞれの主治医の連携、介護支援事業者や他の居宅サービス事業者との連携を円滑に進めるため、入院した直後から退院時に向けて適切なケアを提供するための方法を確立し、さらにそのマニュアル化を目指す。

そのため、第一に、高齢者に退院後も適切なケアを提供できるよう、入院時において在宅における定常状態と介護状況を把握すると同時に、看護添書等を用いて、退院時に病棟看護師から訪問看護師・介護支援専門員に対象者の退院後のケアに必要な情報を提供する。

第二に、入院時において訪問看護師・介護支援専門員から病棟看護師に、利用者の在宅における情報を補完する在宅添書を作成し、これらを中心としたマニュアルを作成して、連携の強化による切れ目のないケアの確立と、退院後のケアの適正化を目的とする。

今年度は、3年間の継続研究の2年目であり、特に第1の内容を確立するための調査研究を行う。なお、3年間での研究の概要は次のようである。

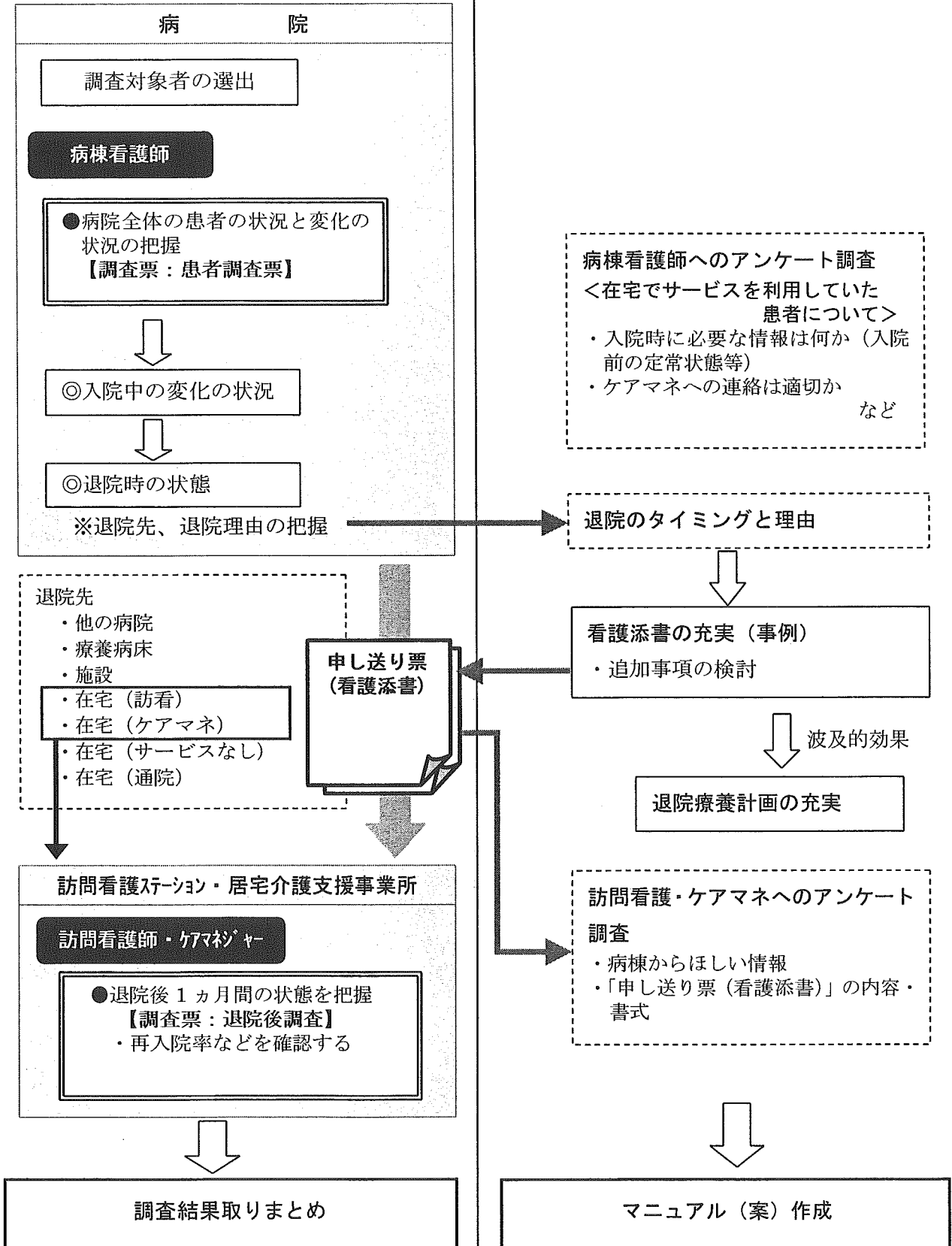
研究の概要（フロー図）



調査の流れ（平成17年度）

統計学的な調査と検証

マニュアルの作成



2. 調査の対象

調査対象施設は、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所との連携が行われている札幌市内の病院3カ所とした。また、調査対象者は、当該病棟において調査期間（3ヵ月）内に入院中または新たに入院した65歳以上の患者のうち、調査に同意を得た方とした。

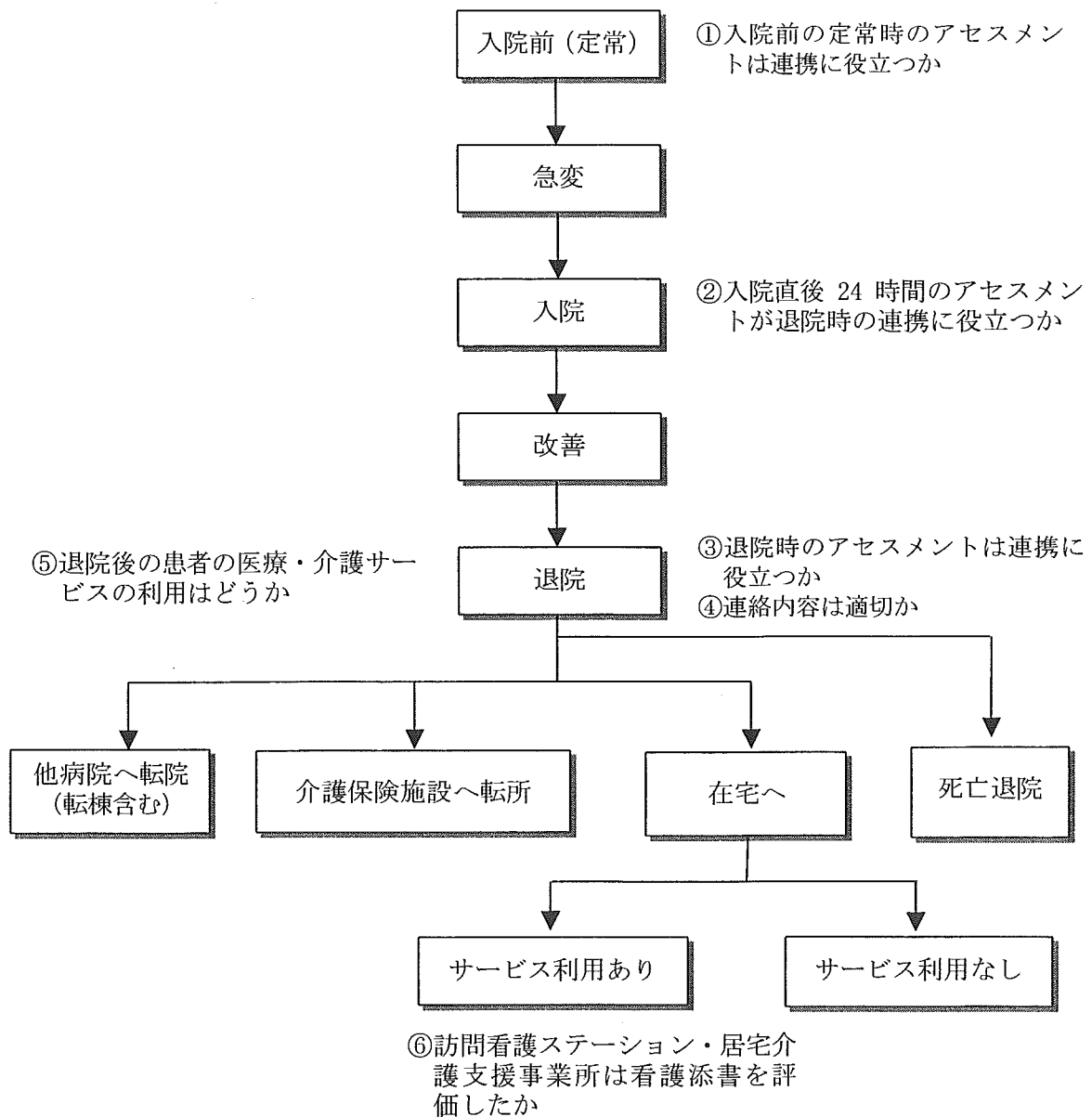
	合 計	A 病 院	B 病 院	C 病 院
病棟数	7病棟	2病棟	1病棟	4病棟
病棟種別		一般・療養	一般	一般・療養
病床数	371床	98床	58床	215床
調査同意者	237名	69名	61名	107名
入院継続者(*)	72名	29名	11名	32名
死亡退院者数	12名	1名	2名	9名
退院者数	153名	39名	48名	66名
転院者	15名	2名	6名	7名
転所者	19名	6名	6名	7名
在宅サービスあり	31名	4名	14名	13名
在宅サービスなし	87名	27名	22名	38名
不 明	1名	—	—	1名

*調査終了時点（平成17年10月31日現在）における人数

3. 調査の方法と流れ

(1) 患者の経過と調査の流れ

患者が入院してから退院するまで、病棟看護師が中心となり、状態の把握、在宅機関との連絡、患者本人・家族への説明を行い、円滑に退院後のサービスに結びつけることができるかを調査するため、以下のような患者の経過に従って、調査事項を定める。



(2) 調査の方法

①「患者調査票」

- ・目的：患者の基本属性（年齢、性別、要介護度、家族構成等）、患者の状態（入院前の定常状態、入院時、退院時の3時点）、入院経路、退院後の予定等を把握する
- ・調査期間：平成17年8月～10月の3ヵ月間
- ・対象：調査期間中に入院していた65歳以上の高齢者全員
- ・実施者：病棟看護師

②患者の「退院後調査票」

- ・目的：退院後1ヵ月間の医療・介護の利用状況等を把握する
- ・対象：調査期間中に退院する患者のうち、退院後に訪問看護サービスや居宅サービスを利用する患者
- ・実施者：訪問看護師・居宅介護支援事業所の介護支援専門員

③看護師の在宅機関との連携に関する意識調査

病棟看護師に対して、在宅機関との連携状況や在宅機関との連携において感じている課題について、アンケート調査を行った。

④看護師グループヒアリング

「患者調査票」の記入を行った看護師29名に各病院でグループヒアリング調査を行った。

⑤「看護添書」

病棟看護師が入院中の情報を詳しく記載した「看護添書」を作成し、調査期間中に退院する患者のうち、退院後に訪問看護サービス等を利用する患者に対して、訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所に看護添書を提供した。

⑥「看護添書」に対する在宅機関の評価

上記④の看護添書に記載された12項目が当該患者にとって役立ったかを聞くため、訪問看護師または介護支援専門員に対してアンケート調査を行った。また、病院退院後の利用者にサービスを提供している事業所に対して、医療機関との連携について自由記入方式のアンケートを行った。

第Ⅱ章 調査結果

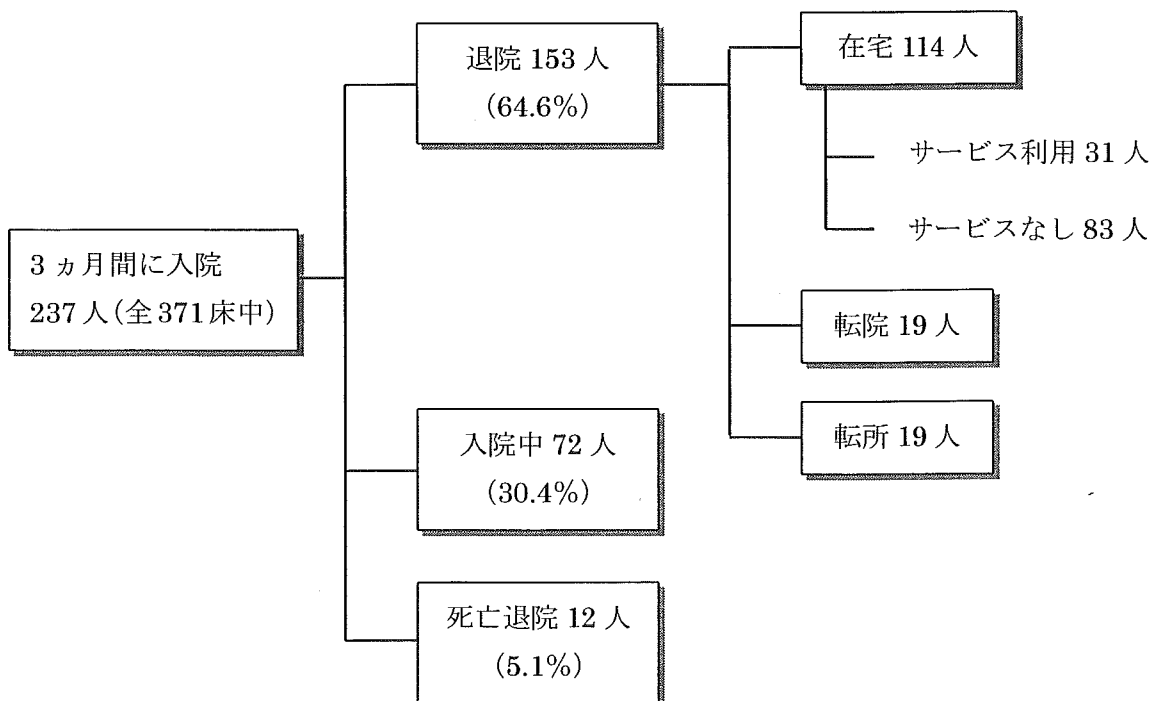
1. 対象患者数

平成 17 年 8 月から 10 月までの 3 ヶ月間に対象とした 3 つの病院（7 病棟 371 床）に入院した（調査期間開始時に入院していた患者を含む）65 歳以上の患者数は合計 237 人で、そのうち調査期間中に退院したのが 153 人（64.6%）、入院中 72 人（30.4%）、死亡退院が 12 人（5.1%）となっている。

退院した 153 人の退院先は、在宅が 114 人（74.5%）、他の病院への転院（同病院内での転棟を含む）が 19 人（12.4%）、介護保険施設への転所が 19 人（12.4%）、不明 1 人（0.7%）となっている。さらに、在宅への退院患者 114 人のうち、在宅サービスを利用しているのが、31 人（27.2%）、利用していないのが 83 人（72.8%）となっている。

以下、在宅に退院した患者について、在宅サービスの利用の有無別に比較する。

対象となった急性期入院患者（65 歳以上）の分類



2. 在宅への退院患者の状態

分析対象とする在宅への退院患者 114 人の状態は、次のとおりである。連携すべき在宅機関があつて在宅サービスを利用している患者と、在宅サービス利用のない患者の別に比較して提示している。

(1) 性別・年齢

性別でみると、全体で男性が 40.4%、女性が 59.6%となっており、在宅サービス利用の有無別でも差はない。

表 1 性別

退院後	性別		合計
	男性	女性	
在宅サービスあり	13	18	31
	41.9%	58.1%	100.0%
在宅サービスなし	33	50	83
	39.8%	60.2%	100.0%
合計	46	68	114
	40.4%	59.6%	100.0%

年齢階層別にみると、「75 歳～80 歳未満」が 26.3%と最も高く、次いで「70 歳～75 歳未満」が 23.7%となっている。また、平均年齢は 77.0 歳で、在宅サービス利用を利用している患者の平均年齢は 78.3 歳、在宅サービスを利用していない患者の平均年齢は 76.6 歳とやや低くなっている。

表 2 年齢階層

退院後	年齢階層							合計	平均年齢
	65歳～70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上		
在宅サービスあり	3	8	7	7	5	0	1	31	78.3歳
	9.7%	25.8%	22.6%	22.6%	16.1%	0.0%	3.2%	100.0%	
在宅サービスなし	15	19	23	12	10	4	0	83	76.6歳
	18.1%	22.9%	27.7%	14.5%	12.0%	4.8%	0.0%	100.0%	
合計	18	27	30	19	15	4	1	114	77.0歳
	15.8%	23.7%	26.3%	16.7%	13.2%	3.5%	0.9%	100.0%	

(2) 入院時の状態

① 要介護度

入院時には、全体で 57.0%が「認定を受けていない」が、退院後に在宅サービスを利用している患者では 96.8%が入院時に認定を受けており、「要介護 1」が 48.4%と最も多くなっている。また、退院後に在宅サービスを利用していない患者では、「認定を受けていない」が 77.1%と高くなっている。

なお、退院後に在宅サービスを利用している患者のうち 1 人は、入院時には認定を受けていなかったが、退院時には認定を受けている。

表 3 要介護度（入院時）

入院時 退院後	認定あり								不明	合計
	認定なし	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5			
在宅サービスあり	1 3.2%	30 96.8%	3 9.7%	15 48.4%	7 22.6%	1 3.2%	2 6.5%	2 6.5%	0 0.0%	31 100.0%
在宅サービスなし	64 77.1%	18 21.7%	4 4.8%	9 10.8%	4 4.8%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%	83 100.0%
合計	65 57.0%	48 42.1%	7 6.1%	24 21.1%	11 9.6%	2 1.8%	2 1.8%	2 1.8%	1 0.9%	114 100.0%

② 世帯構成

全体では「高齢世帯」が 36.8%、「子供等と同居」が 36.0%、「単身」が 23.7%であり、同居家族がいる人が 7 割以上となっている。

退院後に在宅サービスを利用している患者では、「高齢世帯」が 35.5%、「子供等と同居」が 41.9%、「単身」が 16.1%となっている。

また、退院後に在宅サービスを利用していない患者では、「高齢世帯」が 37.3%、「子供等と同居」が 33.7%、「単身」が 26.5%となる。

表 4 世帯構成

世帯構成 退院後	単身	高齢世帯	子供等と同居	その他の世帯	合計
在宅サービスあり	5 16.1%	11 35.5%	13 41.9%	2 6.5%	31 100.0%
在宅サービスなし	22 26.5%	31 37.3%	28 33.7%	2 2.4%	83 100.0%
合計	27 23.7%	42 36.8%	41 36.0%	4 3.5%	114 100.0%

③ 家族による介護への期待

全体では「期待できる」が54.4%と半数以上を占め、「困難である」が21.1%、「できない」が11.4%となっている。

退院後に在宅サービスを利用している患者では、「期待できる」が48.4%と全体よりも低く、「困難である」と「できない」がいずれも25.8%となっている。

また、退院後に在宅サービスを利用していない患者では、「期待できる」が56.6%と全体よりも若干高いが、「必要ない」を除外すると、「期待できる」の割合は69.1%とむしろ高くなっている。

表 5 家族による介護への期待

入院時 退院後	期待できる	困難である	できない	必要ない	合計
在宅サービスあり	15	8	8	0	31
	48.4%	25.8%	25.8%	0.0%	100.0%
在宅サービスなし	47	16	5	15	83
	56.6%	19.3%	6.0%	18.1%	100.0%
合計	62	24	13	15	114
	54.4%	21.1%	11.4%	13.2%	100.0%

④ 入院前の状況（経路）

全体では、「その他」が65.8%と最も高く、次いで「在宅で訪問看護以外の介護保険サービスを利用」が17.5%となっている。

これに対して、退院後に在宅サービスを利用している患者では、「その他」は6.5%と低く、87.1%が入院前から在宅サービスを利用している。退院後に在宅サービスを利用していない患者では、「その他」が88.0%と高くなっている。

表 6 入院前の状況（経路）

入院経路 退院後	他の病院からの 転院	介護保険施設 から転所	在宅で訪問看 護サービスを利用	在宅で訪問看 護以外の介護 保険サービスを利用	その他(サービ ス利用なしを含 む)	合計
在宅サービスあり	1	1	12	15	2	31
	3.2%	3.2%	38.7%	48.4%	6.5%	100.0%
在宅サービスなし	4	1	0	5	73	83
	4.8%	1.2%	0.0%	6.0%	88.0%	100.0%
合計	5	2	12	20	75	114
	4.4%	1.8%	10.5%	17.5%	65.8%	100.0%

⑤ 過去1年間の入院回数

全体では「0回」が45.6%、「1回」が31.6%と合わせて7割以上になっている。

退院後にサービスを利用している患者では、「0回」が25.8%と全体よりも低く、「1回」が35.5%、「2回」が19.4%となっており、平均では1.5回である。

また、退院後にサービスを利用していない患者では、「0回」が53.0%と全体よりも高く、「1回」が30.1%で、平均では0.8回である。

表 7 過去1年間の入院回数

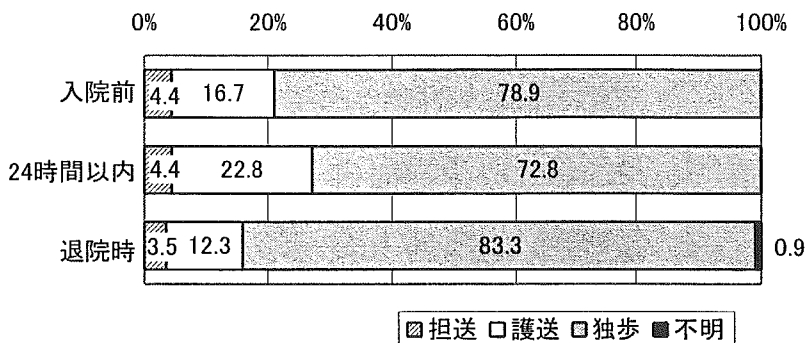
退院後 \ 入院回数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	合計	平均回数
在宅サービスあり	8	11	6	3	2	1	31	1.5回
	25.8%	35.5%	19.4%	9.7%	6.5%	3.2%	100.0%	
在宅サービスなし	44	25	5	6	1	2	83	0.8回
	53.0%	30.1%	6.0%	7.2%	1.2%	2.4%	100.0%	
合計	52	36	11	9	3	3	114	1.0回
	45.6%	31.6%	9.6%	7.9%	2.6%	2.6%	100.0%	

(3) 入院前から退院時までの状況

① 移動方法（全体）

入院前の定常時と入院後 24 時間以内、退院時の 3 時点で、移動方法をみると、以下のようである。入院後 24 時間では、「独歩」が減り、「護送」の割合が増えている。

図 1 3 時点の移動方法 (N=114)



また、入院時と退院時の移動方法別に患者数をみると「独歩→独歩」が 85 人 (72.6%) と最も多くなっている。「担送・護送→独歩」に改善したのが 10 人 (8.8%)、逆に「独歩→担送・護送」と悪化したのが 4 人 (3.5%) となっている。

表 8 入院時と退院時の移動方法

入院時 \ 退院時	担送・護送	独歩	合計
担送・護送	14 12.4%	10 8.8%	24 21.2%
独歩	4 3.5%	85 75.2%	89 78.8%
合計	18 15.9%	95 84.1%	113 100.0%

※不明の 1 名を除く

さらに、退院後の在宅サービス利用の有無別に退院時の移動方法をみると、在宅サービスありでは、「担送・護送」が 38.7%、在宅サービスなしでは、「独歩」が 92.8%となっている。

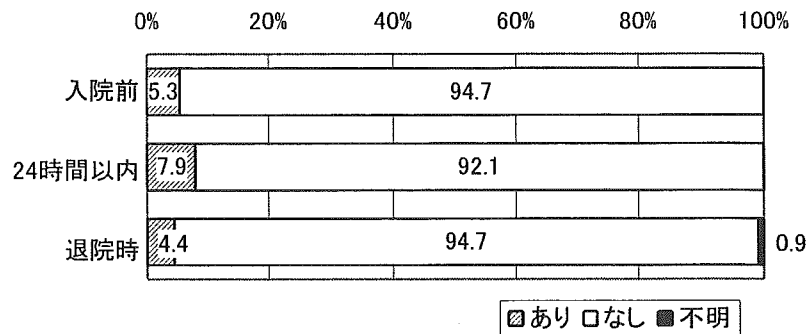
表 9 在宅サービス利用の有無別の移動方法

退院時 \ 退院後	担送・護送	独歩	不明	合計
在宅サービスあり	12 38.7%	18 58.1%	1 3.2%	31 100.0%
在宅サービスなし	6 7.2%	77 92.8%	0 0.0%	83 100.0%

② 問題行動の有無

入院前の定常時と入院後 24 時間以内、退院時の 3 時点で、問題行動の有無をみると、以下のようなものである。

図 2 3 時点の問題行動の有無 (N=114)



また、入院時と退院時の問題行動の有無別に患者数をみると「あり→なし」に改善したのが 2 人、「なし→あり」と悪化したのが 1 人となっている。

表 10 入院時と退院時の問題行動の有無

入院時 \ 退院時	あり	なし	合計
	あり	4 3.5%	2 1.8%
なし	1 0.9%	106 93.8%	107 94.7%
合計	5 4.4%	108 95.6%	113 100.0%

※不明の 1 名を除く

さらに、退院後の在宅サービス利用の有無別に退院時の問題行動の有無をみると、在宅サービスありでは、「あり」が 12.9%、在宅サービスなしでは、「なし」が 98.8%となっているものの、「あり」が 1 人となっている。

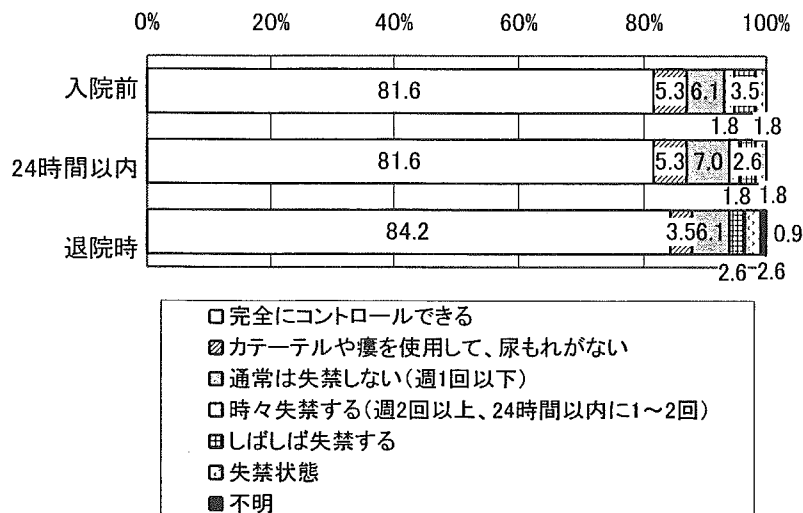
表 11 在宅サービス利用の有無別の問題行動の有無

退院後 \ 退院時	あり	なし	不明	合計
	在宅サービスあり	4 12.9%	26 83.9%	1 3.2%
在宅サービスなし	1 1.2%	82 98.8%	0 0.0%	83 100.0%

③ 失禁

入院前の定常時と入院後 24 時間以内、退院時の 3 時点で、失禁の状態をみると、以下のようである。

図 3 3 時点の失禁の状態 (N=114)



また、入院時と退院時の失禁の状態別に患者数をみると「失禁あり→完全にコントロールできる」に改善したのが 4 人となっている。

表 12 入院時と退院時の失禁の状態

入院時 \ 退院時	完全にコントロールできる	失禁あり(カテーテル等の使用含む)	合計
完全にコントロールできる	92 81.4% (100.0%)	0 0.0% (0.0%)	92 81.4% (100.0%)
失禁あり(カテーテル等の使用含む)	4 3.5% (19.0%)	17 15.0% (81.0%)	21 18.6% (100.0%)
合計	96 85.0%	17 15.0%	113 100.0%

※不明の 1 名を除く

さらに、退院後の在宅サービス利用の有無別に退院時の失禁の状態をみると、在宅サービスありでは、「失禁あり」が25.8%、在宅サービスなしでは、10.8%となっている。

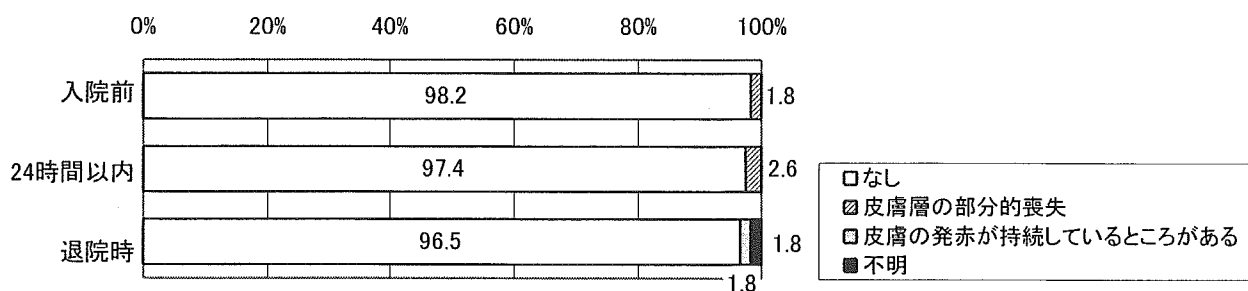
表 13 在宅サービス利用の有無別の失禁の状態

退院後	退院時	完全にコントロールできる	失禁あり(カテーテル等の使用含む)	不明	合計
在宅サービスあり		22	8	1	31
		71.0%	25.8%	3.2%	100.0%
在宅サービスなし		74	9	0	83
		89.2%	10.8%	0.0%	100.0%

④ 褥瘡

入院前の定常時と入院後 24 時間以内、退院時の 3 時点で、褥瘡の状態をみると、以下のようである。

図 4 3 時点の褥瘡の状態 (N=114)



また、入院時と退院時の褥瘡の有無別に患者数をみると「なし→あり」に悪化したのが 1 人となっている。

表 14 入院時と退院時の褥瘡の有無

入院時 \ 退院時	退院時		合計
	あり	なし	
あり	1	0	1
	0.9%	0.0%	0.9%
	(100.0%)	(0.0%)	(100.0%)
なし	1	110	111
	0.9%	98.2%	99.1%
	(0.9%)	(99.1%)	(100.0%)
合計	2	110	112
	1.8%	98.2%	100.0%

※不明の 2 名を除く

さらに、退院後の在宅サービス利用の有無別に退院時の褥瘡の有無をみると、在宅サービスありでは、「あり」が 2 人 (6.5%) となっている。

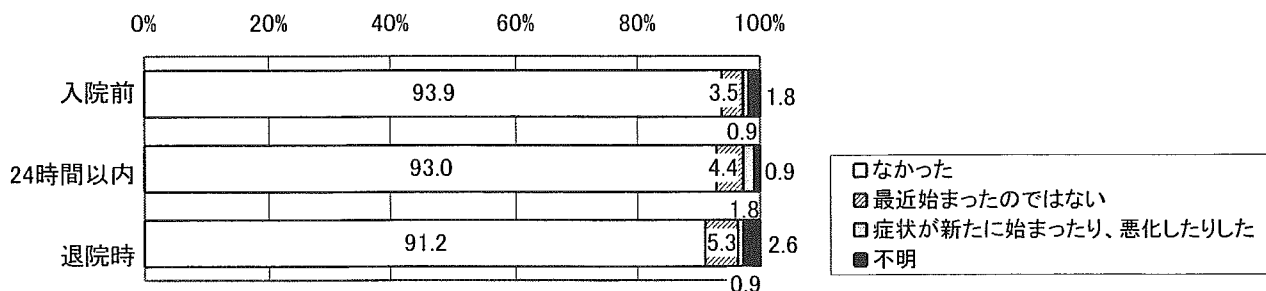
表 15 在宅サービス利用の有無別の褥瘡の有無

退院後 \ 退院時	退院時			合計
	あり	なし	不明	
在宅サービスあり	2	28	1	31
	6.5%	90.3%	3.2%	100.0%
在宅サービスなし	0	82	1	83
	0.0%	98.8%	1.2%	100.0%

⑤ せん妄

入院前の定常時と入院後 24 時間以内、退院時の 3 時点で、せん妄の状態をみると、以下のようである。

図 5 3 時点のせん妄の状態 (N=114)



また、入院時と退院時のせん妄の有無別に患者数をみると「なし→あり」に悪化したのが 2 人となっている。

表 16 入院時と退院時のせん妄の有無

入院時 \ 退院時	あり	なし	合計
	あり	5 4.5% (100.0%)	0 0.0% (0.0%)
なし	2 1.8% (1.9%)	103 93.6% (98.1%)	105 95.5% (100.0%)
合計	7 6.4%	103 93.6%	110 100.0%

※不明の 4 名を除く

さらに、退院後の在宅サービス利用の有無別に退院時のせん妄の有無をみると、在宅サービスありでは、「あり」が 4 人 (12.9%)、在宅サービスなしでは 3 人 (3.6%) となっている。

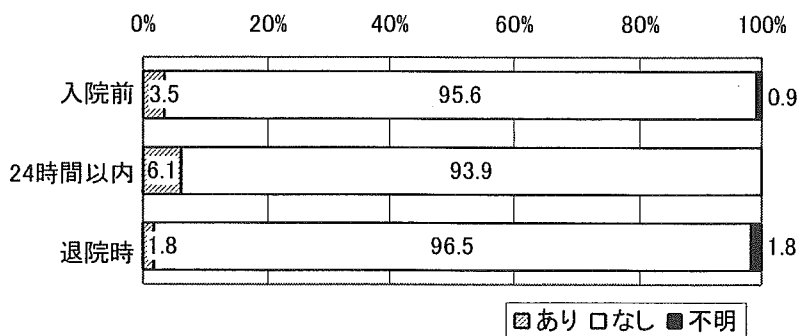
表 17 在宅サービス利用の有無別のせん妄の有無

退院後 \ 退院時	あり	なし	不明	合計
	在宅サービスあり	4 12.9%	25 80.6%	2 6.5%
在宅サービスなし	3 3.6%	79 95.2%	1 1.2%	83 100.0%

⑥ 留置カテーテルの使用

入院前の定常時と入院後 24 時間以内、退院時の 3 時点で、留置カテーテルの使用の有無をみると、以下のものである。入院後 24 時間では、「あり」の割合が増えている。

図 6 3 時点の留置カテーテルの使用 (N=114)



また、入院時と退院時の留置カテーテルの使用の有無別に患者数をみると「あり→なし」に改善したのが 2 人となっている。

表 18 入院時と退院時の留置カテーテルの使用

入院時 \ 退院時	退院時		合計
	あり	なし	
あり	2	2	4
	1.8%	1.8%	3.6%
	(50.0%)	(50.0%)	(100.0%)
なし	0	107	107
	0.0%	96.4%	96.4%
	(0.0%)	(100.0%)	(100.0%)
合計	2	109	111
	1.8%	98.2%	100.0%

※不明の 3 名を除く

さらに、退院後の在宅サービス利用の有無別に退院時の留置カテーテルの使用の有無をみると、在宅サービスありでは、「あり」が 2 人 (6.5%) となっている。

表 19 在宅サービス利用の有無別の留置カテーテルの使用

退院後 \ 退院時	退院時			合計
	あり	なし	不明	
在宅サービスあり	2	28	1	31
	6.5%	90.3%	3.2%	100.0%
在宅サービスなし	0	82	1	83
	0.0%	98.8%	1.2%	100.0%